



七郷クローバーズファームの堆肥舎を借りての種堆肥づくりの様子

発酵の世界を楽しみながら
地域のみんなで農業の難局を乗り越える！

常務理事 吉武 悠里

あいコープみやぎとあいコープ農法研究会(※1)が主体となり、BMW技術協会(※2)の協力を得て昨年4月から活動をはじめた「あいコープ資源循環型農業推進プロジェクト」。農業資材の高騰、担い手不足、毎年の異常気象など、農業生産の現場を取り巻く厳しい状況に立ち向かうための農業経営力(＝理論と技術)を養い、より持続的・安定的な食料生産を、生産産直の地域コミュニティを活かして実現しようと呼びました。(本紙6ページに関連記事)

今から30有余年前、宮城県内での有機農業の推進を目指し、当時のあいコープ組合員と県内生産者がBMW技術を取り入れ、土づくりを基本とした循環型農業を共に学び、生産と消費の協同実践の中でその基礎を築いてきました。現在、生産者も、生協組合員も、職員も、次世代へと継承されつつあります。また、急速に不安定さを増す世界情勢の中で、これまでのように海外原料の肥料に依存した農業のままでは立ち行かなくなるという事実は、当時より多くの人々が認識し始めています。あいコープは現役世代の生産者と共に、外国に依存しない自給型、循環型の有機農業について今一度基礎から学び、実践を進めます。

プロジェクトではBMW技術の基礎と応用をはじめとする講座と並行して、七郷クローバーズファームの堆肥舎の一部を借りた菌体作りと「種堆肥」作りの共同実習を行っています。菌体づくりには農畜生産者だけでなく、あいシテル生産者のタンポポ村やパン工房わ・は・わ、菅野食品（豆腐）や鎌田醤油などの加工メーカーも参加しました。調査の中で、各加工品生産現場で廃棄物となっている様々な資源が、種堆肥の材料として有効活用できることを確認できたからです。

帰り、栽培品目ごとに適したオリジナル堆肥作りへの挑戦が始まります。

勉強会では植物生理の基礎となる化学式が飛び交い、微生物と発酵技術について議論が交わされま
す。「良い堆肥」とは何か、どのよ
うに作るのか、まさに「農業を科
学する」様子は聞いているだけで
もわくわくしてきます。土づくり
は決して楽でも簡単でもありませ
んが、それをみんなで楽しみなが
ら、異常気象による天候影響に負
けない強く健康な野菜を育てるこ
とで、安定的な食料生産、そして
誰もが有機農産物を食べられる社
会を目指す。逆境の今こそ消費者
と生産者、そして地域の人みなで
知恵と工夫を出して持続的な農業
の在り方を模索しましょう。

3月22日に行われるあいコープ農産報告会『安心な食べ物を手にしたいに私たちにできること』では、産地からこの活動の報告がありますので組合員の皆さんもぜひご参加ください。

(※1) 宮城県内の産地を中心に、山形県、福島県、茨城県の産直産地と生協で構成。

(※2) 農畜産物の排せつ物や残さなどのバイオマスを生き物によい水、よい土に変え、農業をはじめとする科学物質に頼らない本来の自然循環の仕組みをかたちづくる技術の研究と普及を行う。あいコープも加盟。

CONTENTS

- ▶共生会総会報告 …2
- ▶たねまきプロジェクト お汁粉の会 …3

- ▶椎茸生産者 福島原発事故からの復興 …4-5
▶じゅんかん！みんなの資源循環プロジェクト …6

- ▶BM 活性水から循環を学ぶ …7
- ▶新連載「今日はコレ！わたしのおすすめ」 …8

あいコープ共生会 第35回総会

2024年2月9日～10日

あいコープの生産者によつて構成される「あいコープ共生会」の年に一度の総会がホテルニュー水戸屋（太白区秋保町）にて開催され、県内はもちろん全国各地の生産者と、生協関係者総勢119名が参加しました。

【平和と人権をジブンゴトとして考える】と題された特別報告では、PTJ（パシフィック・トレード・ジャパン）のペイソー社長からミャンマーの民主化運動について、ATJ（オルター・トレード・ジャパン）の山下万里子社長からパレスチナのオリーブオイル生産者の状況について、それぞれ報告されました。

いずれも、人権が踏みにじられるような紛争の中で苦難に耐える市民や農民の現状をお聞きし、私たち一人一人が海の向こうで起きていることに関心を持つことで、世論を生み、世界を変えていかなければいけないという使命感を強くする時間となりました。



ペイソー氏
（パシフィック・トレード・ジャパン）



山下万里子氏
（オルター・トレード・ジャパン）

総会の議案審議の前に、あいコープから事業と活動それぞれの報告を行いました。理事会からは、地区の活動や農産体験、脱原発の活動など、23年度の組合員活動報告をし、日々ご参加いただいている生産者の皆さんに感謝の言葉を伝えました。また、今年度新たに「魚プロ認証」され、まんなま通信に認証マークがついた3品を紹介し、代表して丸友しまか（岩手県宮古市）の島香友一社長に認定証を受け取っていただきました。



高橋理事長（右）と太田代理（左）から認定証を受け取る島香社長（中央）

議案審議の後には、参加した会員から意見や感想の発表がありました。PBマヨネーズの生産者である丸和油脂の金さんからの報告に呼応して、花兄園（鶏卵）の大須賀裕さんがマヨネーズを取りました。初代PBマヨネーズの開発にお父様である大須賀木さんが、そしてリニューアルした今回の開発にご自身が携わったというエピソードには生産者といふコープの歴史を感じました。また、農産生産者が有機農産物の生産性や品質の向上のために取り組んでいる「資源循環型農業推進プロジェクト」の報告に対し、ジョイファーム小田原（果実）の大須賀さんが「自社にかかわる若手生産者も有機肥料について学びの場を求めている、今後ぜひこの活動を参考にさせていただきたい」と発言し、生産者同士の繋がりがもたらした、共生会という場で広がっていくのを感じました。

すべての議案が満場の拍手で承認され、第35回となったあいコープ共生会総会は無事終了しました。



全国からの生産者とあいコープ関係者119名が一堂に会した

共生会 幹事会の新体制

今総会にて、長年副会長を務められた阿部寿一さん（丸壽阿部商店）が退任となりました。新幹事会の体制は次の通りです。（敬称略）

会長 細谷 滋紀

副会長 大須賀 裕（花兄園）
（七郷クローバーズファーム）

幹事 伊藤 洋平（天童果実同志会）

鎌田 万里（鎌田醤油）

櫻田 真悦（パン工房わ・は・わ）

島香 友一（丸友しまか）

菅原 達徳（はさま自然村）

高橋 利彰（高橋徳治商店）

西塚 忠樹

（大郷グリーンファーマーズ）

長谷部 幸子

（グリーンネットワーク）

監査役 菅野 叔枝（菅野食品／豆腐）

菅野 浩幸（菅野食品／麺）



1/20 たねまきプロジェクト2023

あの渡辺さんとあずきを育てようⅥ「お汁粉会」

今年度のたねまきプロジェクトの活動を締めくくると、お汁粉会が開催されました。

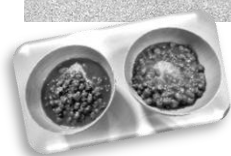
スライドで5月からの活動を振り返った後、来年に残す小豆のたねの選別をしました。

「きれいで大きな豆だけ選ぶのがいいわけじゃなくて、色が薄くても小さくても、もしかしたら長雨に強い個性を持っているかもしれない。多様な豆を残すことで、猛暑や長雨などの時に全滅しないで生き残れるんです。」

と秋保ゆうきの会・渡辺重貴さん。今年度は6年目になる丹波大納言12キロ、2年目の岩手大納言4・2キロを収穫。無事に来年へ繋



美味しく食べて
笑顔でパチリ！



ぐたねを採ることができました。

選別作業の後はお楽しみ、2種類の小豆のお汁粉タイムです。自分達でたねを蒔いて収穫した小豆は格別の味。岩手大納言小豆は色が濃く野趣溢れる味わい、丹波大納言小豆は色が薄めで優しく上品な味、と違いがはつきり出ている、各々感想を言いながら楽しんで食べ比べました。

参加者からは「改めて農家さんへ感謝の気持ちを持たせて」「小豆が種だと初めて知った」「たねの大切さが学べて良かった」などの感想をいただきました。

遺伝子組み換えやゲノム編集、多国籍企業によるたねの独占など、様々な問題がある中で、たねを次の世代へ残し繋いでいく重要さが増えています。一人一人が食べものの原点であるたねの大切さに目を向け、人任せではなく行動を起こしていくことが、自分たちの食べものを守ることに繋がります。今後またたねまきプロジェクトを通じてたねの大切さをお伝えし、秋保小豆を繋いでいきます。

理事 八重畑 ゆかり

1/30 しおさい地区委員会企画

天童りんご 丸ごと食べちゃおう！

今年度しおさい地区の交流先は天童果実同志会。おいしいりんごを減農薬で作る作業に参加したい「トラ

イりんごオーナー」と一緒に、トライりんご作りの1年を体験しました。お招きした3名の生産者さんには、りんご年表を見ながらこれまでを振り返っていただきました。10年前、安全安心な「やつぺしりんご」作りに挑戦したこと、様々な苦労を経てネオニコチノイド系農薬不使用を断念したことと苦悩したお気持ち、減農薬や温暖化のせい、生き

残る害虫対策に奮闘しているお話を伺いました。お話を聞きながら、初めて見るりんごの花に感動したり、無事に育った赤いりんごを手にした時の嬉しさを思い出して、生産者さんへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

お話後は参加者みんなでりんご料理作り。食育コンダクターさんご提案、りんごを使ったスープやサラダなどどれも目新しくおいしいものばかり。生産者さんもりんごの新しい魅力を発見できた！と喜んでおられました。対面交流っていいものです。



エプロン姿も披露してくれた
生産者の伊藤信之さん。



みんなの力作！りんごメニュー

理事 藤田 紀子

あれから13年

「登米市・芳賀さんの原木椎茸生産への想い」

「地域の森林資源を活かした
自立経営で地元貢献したい」

原発事故による放射能汚染で
出荷停止

地元の森林組合で業務課長まで務め、林業の衰退を肌で感じていた芳賀裕さん。豊かな広葉樹資源を活用して地域に貢献したい、との想いから約20年前に仲間とともに原木露地椎茸栽培を開始しました。乾燥椎茸が主流の中、生椎茸の出荷に挑戦し、仙台圏のスーパーストの生産契約等で震災前には約8万本のホダ木で生産を行っていました。順調だった2011年春、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が起こったのです。

福島から遠く離れた登米市の山林も放射能で汚染されたことがわかり、所有する原木4万本を廃棄。その翌年には原木露地栽培椎茸の出荷が県内全域で制限（禁止）されました。県の対応も遅れ、周りの生産者は次々に廃業。特に露地栽培は約9割もが廃業を余儀なくされたそうです。

「うちももうダメかと思ったけど、このまま泣き寝入りはしたくなかった。」窮状を知る市職員の後押しを受け、意見交換会で生産者の悲痛な声を行政に届けるなど活動を展開。H25年に登米市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会が設立され、ようやく行政ぐるみの対策が動き出しました。

水田上に森林の環境を再現、
ホダ木は九州から

芳賀さんは汚染された林内での生産をひとまず手放し、水田の上にブルーシートを敷いて露地ホダ場を造成。県内産のホダ木は使用できないため、遠く九州まで視察に行きホダ木の協力を仰ぎました。大分県と熊本県の生産者とながり、数年間ホダ木の供給を受けることができました。



運び出された汚染ホダ木



田んぼの上にブルーシートを敷き土をかけて造成、さらに覆いをかけて木漏れ日も再現した(右下)。



池田副知事を囲む参加者

コロナ前までは毎年行われていた宮城県知事と宮城県生活協同組合連合会との懇談会が、4年ぶりに「副知事」との懇談という形で再開されました。参加した7生協からそれぞれの活動が報告され、あいこーぷみやぎからは組合員が農産産地へ出向き援農する「産地応援隊」の活動や、節電アクション、安定ヨウ素剤配布会の取り組みを報告しました。池田敬之副知事から安定ヨウ素剤配布会に対する具体的なご意見をいただくことができなかったのは心残りですが、日ごろ私たち生協連が県民に寄り添う活動をしていることを知っていただけたと思います。

理事 櫻井 洋子

あいこーぷとの取引はじまる

H27年3月、震災から4年を経てようやく仮設ホダ場からの出荷が開始。この頃からあいこーぷとの取引も始まりました。

同時に山のホダ場の再開のため、急斜面の山から人の手で林床の土



バスツアーでホダ場を見学する組合同員

や枝葉を運び出し砂利を敷く除染作業を進めました。何度も国と交渉して再開への道筋をつけ、H29年春、ついに山のホダ場からの出荷が再開したのです。組合同員がバスツアーで産地を訪れる交流も初期のころから続いています。H30年に松島町で開催された東日本原木しいたけ協会生産者大会にはあいこーぷから応援団が駆けつけました。「たくさんの生協職員や組合員の方が来てくれて、他県の生産者から羨ましがられた。一番の思い出です。」

仕事場としての里山を再生したい

現在も芳賀さんは地域の里山

「希望の光を信じて。」芳賀さんの挑戦は続きます。

(文責…理事 石井 朱里)



「露地の原木椎茸は管理が難しく、主に乾燥用。収穫体験では生で持ち帰ってもらっています」と笑顔の芳賀さん。



(左上)あいこーぷ応援団が集結した芳賀さん思い出の一枚

(左)取材の日に岩手県から搬入されてきた原木

(右)杉林のホダ場では原木椎茸がすくすくと生育中でした



(左から) 柴田昌平監督、鈴木さん、松野さんによるトークライブ

1/14 映画「百姓の百の声」食べママみやぎと共催で開催

自然と共生し、様々な課題を自然の力と知恵で解決しようとする農家の姿を描いたドキュメンタリー映画「百姓の百の声」(柴田昌平監督作品)がせんだいメディアテークで開催され、午前・午後の上映に合わせて148名が参加しました。有機が慣行かの議論を超えた「農業そのものの未来」が詰まっていた。上映後のトークでは、監督の柴田昌平さんのリードで、渡辺重貴さん、鈴木久美子さん(秋保ゆうきの会)、松野剛明さん(大郷グリーンファーマーズ)、就農したての福田隆史さんから農家の喜びや悩みを生でお聞きし、生産者と消費者がぐっと近くなった実感がありました。

理事 鈴木 真奈美

1/30 宮城県副知事と宮城県生協連の懇談会に参加





みんなの 資源循環プロジェクト

第2回

2月10日に行われたあいコープ共生会
総会の分科会において、第一分科会のテ
ーマとなったのは「誰もが有機農産物を食
べられる社会を目指す取り組みでした。」

「つなげよう地域の資源」土づく
りから誰もが有機農産物を食べられ
る社会を目指して」と題した第一
分科会で、座長の西塚忠樹さんの活
動報告、秋山澄兄さん（BMW技術協会）
のからのBMW技術のお話の後、3グ
ループに分かれて課題や、それにまつ
わる情報交換、夢などを語りました。

有機農産物というと値段が高く、
一部の裕福な人しか買えない……とい
うイメージを抱きがちですが、この
「誰もが食べられる有機」というのは、
まさに今年度始まった「あいコープ資
源循環型農業推進プロジェクト」が成
功した形であり希望の未来です！県
内の農業生産者を中心としたプロジ
エクトメンバーが、人手不足や異常気
象、農業資源の高騰が続く中、そして
将来食糧危機が来ると懸念される中
で、作物生産になくてはならない「土
づくり」を始めています。これは安定
して良い作物を育てる上に収量も上
げ、組合員が買い続けられる価格で
供給するための取り組み。鍵となる

共生会総会 第1分科会



第1分科会の様子

土づくりでは、その材料として藁やも
み殻、畜産生産者から出る家畜の排せ
つ物だけではなく、加工業者から出る
おからや醤油の搾りかすなども使うと
いう循環です。あいコープが行う耕畜連
携の輪が更に広がり、確かなものになる
と感じました。

第1分科会参加 理事 太田代 一世

共生会総会 第3分科会「ミートセンター見学」

第3分科会は、
ミートセンターで
生産者が座学と
製造現場の見学
を行いました。生
産からお届けま
での過程が一元
化された透明性
のある食肉流通
の実現、そして社
会福祉法人みんなの輪と連帯すること
のできる地域福祉とのつながり。具現化
されたここにしかないこれらの取組み
は、参加した生産者から多くの共感を
得て、そして感動を与えられたように思
います。今後もこの新しい事業のかたち
を発信し広げていきたいと思います。

第3分科会参加 商品部 辻井 知弘



第3分科会の様子

共生会総会 第2分科会「伝わる紙面づくり」

第2分科会で
は、参加した生産
者自身が、まんま
通信の紙面デザ
インに挑戦。掲載
すると設定した
商品を多角的に
観察し、組合員に
何を伝えたいか、
どうすれば商品の価値や魅力が伝わる
か（購買に結び付くか）を時間内に話し合
い、デザインやキャッチコピーを考案しま
した。生産者自身が「売り場」としての
カタログまんま通信に関心を強くする
機会にもなったと感じました。

第2分科会参加 理事 鈴木 真奈美



第2分科会の様子

組織概要

(2024年1月分)

【組合員数】	16,906名
【供給高】	219,695千円
【一人実利用高】	5,790/週
【出資金】	1,378,717千円

理事会議事録抄

2024年2月6日（火）

▼2024年度たねまきプロジェクトの企画案を承認した▼2024年度農産産地交流企画案を承認した▼仙台えんのう倶楽部への運営協力金について承認した▼2023年度活動報告について検討した▼2023年度事業報告について検討した▼2024年度活動計画について検討した▼第36回通常総代会に係る案内文書及び各種提出書類について確認した。



自然のこと、知っているようで知らないことが多いことを実感しました。私たちは自然につつまれて生きていることを常に忘れたいです。BM活性水と自然循環の詳しいお話をありがとうございました。（活性水学習会参加者感想）

始めよう！続けよう！ 石けん生活

1/26 石けん環境委員会主催学習会

BM活性水とBMW技術を通して

自然循環を学ぼう



生物活性水
「BM active water」

石けん環境委員会の定例会で
たわし作りのためのヘチマ栽培
を振り返った時「猛暑で育てるのが
が厳しかったね。まんま通信に
BM生物活性水ってあるけれ
ど、作物にいいのかな？」と話題
になり、秋山澄兄氏（一般社団法
人BMW技術協会事務局長を講師
に迎え学習会を開催しました。

BMW技術とは、森に降った
雨が、微生物によつて分解され
た腐植土と下にある岩石を
通り地下水となり、湧き水とな
って地表に現れるという自然の
浄化作用をモデルにして作られ
ている技術で、特定の菌を使用
しているものではなく、その土
地にいる微生物を活性化させる
技術だと教えて頂きました。

あいこープではBMW技術を

農産や畜産の現場やミートセン
ターの排水処理にも使用してい
ること、また現在あいこープと
生産者が取り組む「あいこープ
みやぎ資源循環型農業推進プロ
ジェクト」で地域未利用資源の循
環のためにも活かされているこ
とをお聞きしました。

後半には、実際利用している



講演する秋山 澄兄さん
(BMW技術協会事務局長)

石けん環境委員会
理事 佐藤あきな

能登半島被災地支援



2月12日から16日にかけて佐藤好則営業課
課長が、あいこープみやぎを代表して、能登半
島地震被災地に入り被災した組合員にこープ
共済のお見舞い金をお届けするこープ共済連
の活動に参加しました。現地は土砂崩れなどで
道が悪く移動に時間がかかりながらも、一軒一
軒組合員宅を訪問し、お会いできた方に「生協」
ですと伝えたと安心して話してくれたそうで
す。中には涙を流しながら「本当に来てくれて
ありがとう」と感謝されたこともあったとい
うことでした。あいこープみやぎは今後も能登半
島地震の被災地の復興に取り組む人々への支
援をつづけていきます。



編集後記

2月9日の共生会総会での
特別報告「平和と人権をジブン
ゴトとして考える」は総会企画
としては初めて取り組んだデー
マでした。「人・食・環境を大
切に」というあいこープの理念
に共鳴して共に歩もうというの
が共生会の基本ですが、共生会
の仲間が自分事として考え取
り組み続けていることに、共感
の輪が広がったと思います。こ
れからの時代はますます人の痛
みをキャッチするアンテナを高
く掲げていかなければならない
と思います。

組織運営室室長 豊嶋 馨

委員さん募集中！

あいこープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当：組織運営室長 豊嶋)



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこープみやぎ独自の地域福祉政策で、
組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組み
です。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシュー
への支援など、地域福祉にも役立てられています。
個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電
話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く
利用されています。

ジョイケア利用状況 (2024年1月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	4件	利用延べ人数	11名
集団託児	8件	◆ケア時間	
慶弔・出産	22件		32時間
電話相談窓口	9件		
計	44件		

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ

☎ 0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・・・4/14(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

法律相談・・・4/9(火)、4/17(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30~15:30

* 菅井裕行氏(宮城教育大学教授)の子ども相談は
奇数月(5、7、9、11、3月)になります。

* 傾聴は3月で終了となります。

* 介護相談は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプランセンター木もれび 山崎彰子氏)

▼随時受付可可能です。各相談窓口前週の金曜
日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の
場合は直前の平日の受付時間まで受付しま
す。▼予約して頂いた方には、相談日に相談
員からお電話を差し上げます。



①自分では作らない(りんごの)お料理もあり勉強になったし、おいしかったです。生産者の方のお話を聞き、大変とありが
たさを実感しました。これからも食べる事で応援したい。(天童りんごまるごとたべちゃおう in しゃい参加者感想)



今日は
コレ!

わたしのおすすめ

〈第1回〉

今月の食材

国産丸大豆醤油

(鎌田醤油)



皆さんお馴染みの鎌田醤油の「国産丸大豆醤油」は、今から30年程前、供給を開始しました。一般の醤油の多くは輸入の脱脂加工大豆が原料として使われ、あいこープで供給するものも例外ではありませんでした。そんな中、国産で遺伝子組み換えでなく、生産地も作り方もわかる大豆と小麦を使った醤油を望んだ組合員と、鎌田醤油さんが協力して生まれたのが現在の「国産丸大豆醤油」です。

当時のあいこープにあった「商品委員会」に地区委員が参加して、組合員へのアンケートや鎌田醤油さんの見学などを企画し、組合員の期待もどんどん膨らみました。同時に鎌田醤油さんでの醤油の試作も始まり、最初は熟成期間1年かとも言われていましたが、それが伸びて2年近くかかりました。しかし、待った甲斐はあり、出来上がった醤油は深みのある素晴らしいものになったのです。

私がこの醤油を「素晴らしい」と言う何よりの証拠は、仮に薄めても旨みがしつかり残ることです。例えば市場に出回る減塩醤油の中には薄める製法のものもあり、その場合失われた旨みを他の調味料で補わざるを得ないそうです。が、この国産丸大豆しょうゆは、薄めてもうまみを感じることができると、私は思います。試しに少しだけ薄めて味わってみてください。

本物は嘘をつきません。あいシテルの国産丸大豆醤油は、いいお醤油です。

食育コンダクター※

工藤 恭子

※食育コンダクターとは・・・NP0 法人とうほく食育実践協会が育成・認定する「食の伝道師」。
約1年間、養成講座を受講して食の根幹を学んだメンバーが、食育の現場で活躍している。

国産丸大豆醤油で作る 「手作りポン酢」

材料

- ・国産丸大豆醤油
- ・酢
- ・煮切りみりん
- ・昆布(5センチ程度)

作り方

醤油7・酢5・煮切りみりん3の割合で材料を計り、昆布と一緒に広口瓶に入れます。仕込んで二日目くらいから使うことができます。ゆずの果汁も入れればゆずポン酢に！

冷蔵庫で保存すれば、数か月使えますが、できるだけ早めに食べられるよう、一度に作りすぎないようにしましょう。



今後の予定

3/22

2023年度農産報告会 生産者と語る会
安心な食べ物を手にしたい私たちにできること

場所/あいこープ日の出町センター大会議室
オンラインあり 試食あり
時間/10:00~12:00 参加費/無料

3/28

脱原発エネシフ委員会主催
こどもに原発事故を伝える会

場所/日立システムズホール仙台 3Fエッグホール
時間/10:00~12:00 参加費/無料

3/23

STOP! 女川原発再稼働
さようなら原発全国集会 in 宮城

場所/勾当台公園市民広場
時間/集会 14:00~ アピール行進 15:00~
主催/さようなら原発みやぎ実行委員会

女川原発が止まってから

4743 日目
(2024年3月4日現在)

